

楽しく読んじゃう 新★ 看護学事典

小社発行の「看護学事典」の執筆者の皆様は、事典で解説していただいた用語にまつわるエッセイをご執筆いただきます。

第7回

プレパレーション

子どもや家族が理解できる説明や細やかな配慮を受けることによって心身の準備をし、先を見通すことができ、子ども自身が意思決定できる状況に導くこと。(看護学事典第2版より)

子どもに教わる日々

伊藤 久美 Ito Kumi

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

プレパレーションは「心理的混乱からくる悪影響を軽減し、子ども自ら意思決定ができる状況に導くためのもの」です。プレパレーションが「単に予め説明することではない」と重々承知した上で、その意義を実感したエピソードをご紹介します。

プレパレーションは、その時々で必要に応じて行われています。その中で、入院が長期になり繰り返し様々なプレパレーションを受けているうちに、“お話ないなら私やらない”と言う3歳児が現れました。

彼女は1歳半の時に小児がんで入院し、母親と医療者は当初から本人がわかる言葉やおもちゃを使って説明していました。そのため、1歳半でもそれなりに状況を理解できていたようでした。2歳半で再発をした時、母親から「子どもにまた入院して治療をしなくてはいけないことを看護師さんから話してほしい」と言われ、私は今まで通り彼女が日頃使っている言葉で話してみました。すると「うん、うん、バイキンさんがまたここ(お腹を指して)に入ったって、またやつつけるお薬するからお泊りだってママが言った」と話してくれました。

入院後、以前のプレパレーションは

あまり記憶にないかもしれないと思い、年齢に合わせて、もう少し具体的に行いました。しかし、彼女は以前に話されたことは、ほとんど覚えていました。

そうしているうちに、彼女はわからないことがあれば、医療者に説明を求め、徐々に入院生活を自分でコントロールするようになっていきました。

服薬の時は「このお薬は何？ お話聞いてないから飲まないよ!」。処置室に行く時も「痛くないように看護師さん4人で連れてって。ママはここ(処置室)にいてもいいけど、足(の処置)は〇〇先生と看護師さんだけ」。医療者と両親の話し合いに至っては「私は聞かなくていいの？ 私のこと話すんでしょ?」と、亡くなるその日まで、自分の思う通りの生活をしようとしていました。

何歳であっても、その子どもに合わせたお話(プレパレーションを含め)が常にできるような環境があれば、子どもは自分の力で生活をコントロールしていくのだということを、彼女は身をもって教えてくれました。何十年と小児看護に携わっていますが、まだまだ子どもに教わる日々が続

きます。

日本で唯一、看護職だけの
執筆による事典。
待望の第2版ができました。

看護学事典 第2版

A5判 / 横組 1200頁 / 2色刷
ISBN 978-4-8180-1601-9
定価(本体 6,600円+税)



【総編集】

見藤隆子・小玉香津子・菱沼典子

【内容紹介】

項目語: 約 4500語 ← 約 500語追加

索引語: 約 1万4000語 ← 約 2000語追加

★本書は単なる辞典(ことばの解説)ではなく、看護学領域における事典(ことばの解説)として編集しました。

お問い合わせ・販売はコールセンターまで

TEL: 0436-23-3271 FAX: 0436-23-3272

<http://www.jnpsc.co.jp/> 日本看護協会出版会